

## いじめがなくなるために

小学校五年

ぼくは、いじめは絶対に起こってはいけないことだとずっと考えている。しかし自分から注意するのはとても勇気がいることだと思う。

ぼくが保育園を転園したときのことだ。始めは不安だったが、保育園の友だちと慣れてくると楽しく遊べるようになった。しかしあるとき、クラスの中でたたいたり悪口を言ったりするいじめが起きた。ぼくは良くないと思っていじめを止めようとした。すると、今度はぼくがいじめられるようになった。最終的に先生が話を聞いてくれていじめはなくなったが、そのことがあってぼくは自分からいじめを止めるように行動することが怖くなった。そしていじめの止め方は、自分が注意するよりもまず先生を呼ぶことで自分も傷つかずに解決できると思うようになった。

しかし、そんな考えを変える出来事があった。二年生のとき、クラスのいじめを見てしまった。ぼくはすぐ先生を呼びに行こうとした。そんなとき、一

人の五年生が現れてその子に注意した。そのおかげでいじめが止んだ。五年生は強く怒るのではなく、いやな思いをしている友だちの立場になって「本当にいやなんだって。謝って、もうやめようね」と伝えていた。先生や大人に助けてもらうことが必要なときもあるが、同じ立場の友だち同士で注意し合うことによって、本当にだめだと感じてもらえることがよく分かった。ぼくは思った。「自分もいじめを見たらこういう風に止めよう」

自分のことや周りの友だちを助ける方法はたくさんあって、自分にできる方法でいじめをなくしていくことができると思っている。また、いじめにあって悲しんでいる人の気持ちもよく分かるので、本当にいやな思いをしている事をちゃんと伝えたい。そして、みんなに気付いてもらえるようにしていきたい。